

白石伝統の和紙づくりを体験

小原中学校「白石和紙漉き」

1月21日、小原中学校で白石和紙漉きの体験学習が行われ、2年生3人が和紙漉きに挑戦しました。同校で2年目となるこの体験学習は、生徒に白石の伝統文化である白石和紙に触れてもらおうと、白石和紙の技術を伝承する市民団体「蔵富人」の支援を受けて開催されています。

この日は、材料となる虎斑楮の繊維を、冷水に浸してごみを取り除いたり、木の棒でたたいてほぐしたりと、昔ながらの工程を体験。その後、漉き槽で「すげた」と呼ばれる型枠を揺らしながら、和紙漉きの手ほどきを受けました。漉いた和紙は翌日乾燥させ、来年度自身が受け取る卒業証書に使用されます。

蔵富人が製造する白石和紙は、市内全中学校の卒業証書に使われているほか、虎斑楮でつながらのある愛媛県鬼北町で、白石和紙「紙子」の名刺入れが新成人への記念品に使われるなど、取り組みが広がりを見せています。



1_虎斑楮とトロロアオイを入れた原料をすげたに入れて漉いていきます 2_水の冷たさにかじかみながら、繊維をほぐす作業 3_棒でたたき続ける大変さを実感！

伝統を引き継いで、熱い戦い！

白川小学校「動くジャンボカルタ取り大会」

1月20日、大きな絵札を背負っている児童を追いかける白川小学校の冬の恒例行事である「動くジャンボカルタ取り大会」が行われました。同大会は今年で44回目、この日は全校児童が参加して、学年縦割りの3チームに分かれて取った絵札の点数と絵札の出来栄で得点を競いました。

例年は地域の方や4月に入学する白川保育園の園児なども呼んで開催していますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため同校児童のみで実施。それでも絵札に付いているひもを取ると歓声があがり会場は盛り上がり、各チーム元気いっぱい体育館内を走り回って絵札を追いかけました。

参加した児童は、「カルタを追いかけて取るのが楽しかった。今年は一つ取れたので来年はもっと取れるようにがんばりたい」と話してくれました。



1_制限時間は1分、見つかったらとにかく逃げる！ 2_自分の絵札が読みあげられても相手に気づかれないよう冷静に 3_読み上げられた絵札かな？

スポーツ交流で新年を祝う

2021年けり初め

1月1日、白石川サッカー公園で新年最初のサッカー交流会「けり初め」（白石市サッカー協会主催）が行われました。この日は、子どもから大人までのサッカー愛好者約50人が集まり、4チームに分かれて試合をスタート。フィールドは降り積もった雪であいにくのコンディションでしたが、参加者は懸命にボールを追い掛けながら、交流試合を楽しんでいました。

参加者は「幅広い年代の方々とプレーできてとても楽しかったです」と話していました。



▲雪上でボールを競り合う参加者

両園が昔遊びを通じて交流

第二幼稚園「昔遊びの会」

1月15日、第二幼稚園で「昔遊びの会」が開催されました。この日は第二幼稚園の園児53人のほか、本年3月で休園となる第一幼稚園の園児19人も参加し、羽根つきやこままわし、カルタや折り紙などの昔遊びを通して交流を図りました。

例年は地域の方が子どもたちに昔遊びを教えながら交流をしますが、今年は新型コロナウイルス感染防止のため、両園の園児と第二幼稚園保護者（ボランティア）で実施しました。



▲友だちと一緒に昔遊びを楽しみました

厳しい寒さで引き立つ風味

「寒ざらしそば」仕込み作業

1月20日、白石スキー場付近の溪流で「寒ざらしそば」の仕込み作業が行われました。寒ざらしそばは、そばの実を冷水に浸すことであくが抜け、甘みが増しのど越しが良くなるとされ、多くのそば愛好者に親しまれています。今年で18年目となる作業に、主催した白石興産株式会社の有志やそば店経営者など5人が参加。溪流にそばの実540kgを浸して行きました。

市内では材木岩公園内「なごみ茶屋」で、3月上旬から数量限定で提供される予定です。



▲分厚い雪で覆われた溪流。冷たさをこらえての作業